

本日のプログラム

2024年4月17日(水)
通算第3072例会
本年度第29回
瀬戸商工会議所
例会次第

- ・開会点鐘
- ・「日も風も星も」
- ・出席状況
- ・会長挨拶
- ・行事
- ・祝福
- ・幹事報告
- ・次年度幹事報告
- ・委員会報告
- ・その他の報告
- ・卓話 次年度クラブフォーラム
担当:次年度会長・幹事



第3071回例会 会長 青山 稔君 挨拶

皆さんこんにちは。本日は第3071回本年度28回目の例会です。本日のゲストをご紹介します。尾張東部衛生組合 施設更新プロジェクトチーム 主査であられます柴田謙様です。後ほど「晴丘センターの施設更新」という演題で卓話を頂戴いたします。柴田様、宜しくお願ひ致します。

さて、先日地区より、4月3日に発生しました台湾東部地震への義援金の要請がありました。本日は義捐箱をお廻し致しますので、任意ではありますが皆さんのご協力をお願いいたします。台湾からは東日本大震災の時には220億円、先日の能登半島地震でも25億円の義援金を届けて頂きました。台湾は隣国であり大の親国国であります。我々と致しましても米山学友ロ・カキンさん、タイ・リンさんの母国であります。何とか早い復興を心からお祈り申し上げます。

さて、先週の加藤一夫次年度会長のPETS報告、次年度会長方針に引き続き、先週の7日、日曜日に次年度、地区研修協議会が名古屋 Marriott アソシアホテルで開催されました。私は、出席義務者ではありませんでしたので出席はしていませんが、本当にいよいよ、次年度がスタート準備に入った…という感じがしております。プロ野球に例えますと、今は開幕前のオープン戦前半といった感じでしょうか？開幕ダッシュに合わせ、次年度役員各位が心技体を研ぎ澄ませ、虎視眈々と開幕を待つ！という時期ではないかと思えます。

例えば今年の中日ドラゴンズ！私から言わせると、多くの解説者達の今年も最下位・Bクラス予想を大きく覆す

『結果』を、今現在ですが我が中日ドラゴンズは出し続けています。今日現在8年ぶり、2891日ぶりの単独首位！であります。本当に秋が楽しみです。さよなら中日ドベゴンズです。つまり、何事も準備が必要だということではないでしょうか？下馬評を覆そうと選手・首脳陣が必死に準備・練習をしたからこそこの結果であると思えます。

先日の次年度地区研修協議会は、さあ、次年度のスタートの準備を始めて下さいよ、という事ではないでしょうか？頑張ってくださいと思います。できる限りの協力をさせていただきます。

次年度の話はこままと致しまして、本年度に話を移します。先週木曜日に、来月5月29日(水)に行われます、瀬戸RCモーニング親睦会(記念橋の瀬戸蔵1Fの華ごよみ)の現地調査を、刑部親睦委員長の思い付きで行ってきました。突然すぎる思い付きの現地調査でしたので、刑部委員長と私だけかと思いましたが、なんと！伍春加藤克己君、富田君、少し遅れて鈴木伸君の合計5名でみっちり調査することが出来ました。これも、何とかこの親睦事業を成功させたいという刑部委員長の執念めいたものを感じました。何とか成功させたいと思えました。

今年度の話題が大変薄くなってしまったのが気がかりですが、本日の会長挨拶とさせていただきます。本日も宜しくお願ひいたします。

前回例会 記録

- ・2024年4月10日第3071回
- ・場所 瀬戸商工会議所
- ・出席報告 54名 出席会員 41名
当日出席率 87.23%
- ・行事
- ・本人誕生日 花田 薫君
- ・ご夫人誕生日 鈴木 政成君 ご夫人 章子様
- ・幹事報告(第10回定例理事会報告含む)
- ・次年度幹事報告
- ・ロータリーの友4月号要約
- ・卓話 尾張東部衛生組合 施設更新プロジェクトチーム 主査 柴田 謙様
「晴丘センターの施設更新」

例会予定

4月24日(水)

規程休日

5月1日(水)

休会

5月8日(水)

職場例会

瀬戸商工会議所での短縮例会後
→職場見学:さくらんぼ学園

ニコボックス報告(第3071/回例会)

尾張東部衛生組合 柴田謙様、ようこそお越し頂きました。本日の卓話を楽しみにしております。会長 青山稔、幹事 鈴木光彦 誕生日をお祝い頂き、ありがとうございます。花田薫 妻の誕生日をお祝い頂き皆さんありがとうございます。鈴木政成 大澤君ありがとう！助かりました。刑部祐介 タバコを吸わなくなって丁度1年が経ちました。おそらく体調は良くなっているのかもしれませんが、しかし、何となく毎日が楽しくないんです。まあ、頑張ります。江坂正光

尾張東部衛生組合 施設更新プロジェクトチーム 主査 柴田 謙様の卓話を楽しみにしています！

青山貴彦、稲垣孝幸、井上博、江坂正光、大竹一義、刑部祐介、小野隆浩、梶野輝雄、加藤五津美、カネ三加藤克己、加藤眞言、加藤光哉、加藤太伸、加藤陽一、亀井勝、小林稔、澤田武憲、鈴木伸、鈴木政成、田中靖達、富田康太、花田薫、藤田哲安、牧オサム、増岡錦也、松村晋也、山内敏也、山口記由、山本英雄、柚木猛

尾張東部衛生組合 施設更新 プロジェクトチーム主査 柴田 謙様 「晴丘センターの施設更新」



青山会長をはじめとする瀬戸ロータリークラブの皆様、貴重なお時間を頂戴し誠にありがとうございます。

私は、尾張東部衛生組合晴丘センターの施設更新プロジェクトチーム主査の柴田謙と申します。本日は現場の最前線でごみ処理施設更新に関わるものとして本日は皆様へ現状をお伝えできれば幸いです。拙い説明の部分も多かと思いますが、ご容赦いただければ幸いです。

それではまず最初に私の自己紹介をさせていただきます。改めて私の名前は、柴田謙と申しまして通称「シバケン」と呼ばれております。妻、娘、息子2人の5人家族となります。2011年4月に瀬戸市役所へ入庁し、税金の収納業務、国勢調査などの統計調査部署、市の総合計画に関わる企画部署、企業支援部署を経て、令和4年11月の施設更新プロジェクトチーム発足に伴い主査として配属となったところです。現在の部署では概ね1年半となります。

それでは次に、尾張東部衛生組合についてご説明させていただきます。尾張東部衛生組合は、あまり馴染みのない名前かもしれませんが、瀬戸市、尾張旭市、長久手市の3市で構成、運営する自治体となっております。自治体なので各市から5名ずつ議員さんを派遣いただき組合で議会を持っています。他に身近なところだと陶生病院なども同様の形態をとって運営しています。尾張東部衛生組合では瀬戸市、尾張旭市、長久手市の3市が収集運搬してきたごみを、焼却して最終処分することが生業となります。ごみの収集運搬、資源ごみの回収などは市のしごととなっており、役割分担をしてごみ行政を行っているといえます。

組合の沿革としては、昭和39年に瀬戸市と今の尾張旭市で組合を設立し、その後、昭和48年には今の長久手市が加入して今の組合構成となりました。昭和49年にできたごみ焼却施設を平成4年に更新しており、飛んで今施設を令和4年に延命化工事することで寿命を約10年延長したところです。また、平成14年には瀬戸市北丘町に現在の最終処分場が完成し、運営を始めました。そして、昨年度の令和5年度末に「ごみ処理施設整備基本構想」という今後の施設更新の最初の方針を示す計画を策定したところで、現在、新施設の更新に向けた調整をはじめたところです。

さて、晴丘センターでは、一般廃棄物いわゆるごみの処理を365日24時間稼働する体制で処理を行っています。そしてあまり知られていない部分ではありますがごみを焼却する際に発生する蒸気でタービンを回して発電もしています。運営するうえで特に気をつけているのが携帯電話等に含まれるリチウムイオン電池の破砕による火事です。先般、豊田市の渡刈工場において大きな火事で一時ごみ処理場が使用不能になり、市がごみ非常事態宣言を出して近隣でも受け入れたという事例があります。このように処理場が停止すると約1週間でごみが溢れるといわれていることから、最新の注意を払ってごみ処理場を運営しているところですが先ども触れたところではありますが、平成2年、4年に現在の施設を稼働しており、稼働後30年以上が経過しています。延命化の期限が令和15年ごろとなることから、今から施設更新に向けた調整をしているところとなります。昨年度末に策定した「ごみ処理施設整備基本構想」では、令和15年に新施設の稼働を目指すことに加え、昨今の環境を巡る社会情勢を踏まえて、炉の規模をダウンサイジングする必要があることから、可燃ごみ処理施設は日量240t以下、破碎処理施設は50tから21t以下に縮小することを目指しています。

施設の更新だけでも瀬戸市の単年度の一般会計予算規模に迫る400億円以上がかかる可能性があります。更新費用は施設規模も関わってくることから、施設規模の縮小は更新費用の圧縮にもつながる可能性があります。今後も市民の皆様と一緒に更なるごみ減量に励んでいく必要があるといえます。

つづいて、ここからはごみの現状についてお伝えしてまいります。一般廃棄物は家庭系と事業系に分類されます。家庭系はいわゆる一般家庭で排出するごみのこととなります。事業系ごみは事業者の皆様からのごみとなります。余談とはなりますが、瀬戸市の人口は令和5年4月1日現在で12万7,882人、13万人を割って久しいところではありますが、瀬戸市、尾張旭市、長久手市の人口割合は5:2.5:2.5となり半数が瀬戸市民であることは変わっていません。また、事業者数は4,507者となり、数年前5,000者いた事業者数も減少傾向となっております。ただし、従業者数は5万679人となり、若干ではありますが増加傾向となっており、ごみの量も従業者数に比例する部分もありますので今後の動向を検証していきたいと考えております。尾張東部衛生組合のごみ量は68,552t、うち瀬戸市のごみ量は人口割合と同じく半数程度となっています。なお、家庭系と事業系の割合は8:2となっており、やはり一般家庭からのごみが多数を占めているといえます。ただし、全国的には家庭系と事業系の割合は7:3程度であることから、瀬戸市は事業者数が他のまちと比較すると多いものの、ごみの量が相対的に少し少なくなっているという傾向があります。このあたりは、ごみの減量に向けて、今後の検証材料となるのではないかと考えているところです。

昨年、瀬戸市が策定した一般廃棄物処理基本計画において、瀬戸市のごみ量の目標を定めておりますが、先ほどのごみ量に資源分別したものも含めて令和4年度実績の38,930tを33,625tを目指すこととしています。これを家庭系で換算すると一人一日あたりごみ量ベースで10年後には143gの減量が必要となる目標で、25%という削減幅となります。また、事業系は936tで14%という削減幅となります。なお、一般廃棄物処理基本計画は策定が法律で定められており、昨年度令和5年度中に瀬戸市だけでなく尾張旭市、長久手市でも策定しているところですが、家庭系ごみの削減目標は尾張旭市は100g、長久手市は72gの減量を掲げており、瀬戸市は他2市に比べるとかなり厳しい目標値を設定しているといえます。このことから、市民の皆様と一緒によりごみ減量に取り組む必要があるといえます。

つぎに最終処分についてです。先ほどのごみの処理工程について、最終処分のお話をさせていただきましたが、ごみを焼却処分すると必ず灰が発生します。その灰に関しては多くを瀬戸市の北丘町にある北丘最終処分場で埋立処理をしているところですが、平成14年に稼働して20年経過した現時点で残りの要領は6割を切るころまで来ています。新たな最終処分場の整備は困難であることから、大切に使う必要があるとも考えています。参考ではあります、全国最終処分場の状況としては残余年数23.5年となっており、北丘最終処分場と同等程度であるといえます。また、現在はゲームセンターのコイン押しゲームのような仕組みのストーカ炉という方式でごみ処理を行っています。この方式は12%程度の灰が必ず発生します。令和4年度実績の灰量は8,322tとなっています。今後、炉の方式によってはこの灰の量も変わってくる可能性があります。バイオマスという有機物のみを取り出してガス化する方式はエネルギーは取り出せるものの、やはりその後には焼却処分が必要となることから、灰が必ず発生します。他方、1500℃近い高温でごみを溶かす熔融炉方式というものもありますが、この場合、灰の量は激減します。ただし、燃料を多く使うことから昨今のカーボンニュートラルとは逆行するという課題もあるため、新施設の更新に向けては、慎重に様々な検討を行い、今後の方針を定めていくことを予定しています。

最後に循環型社会の構築についてです。持続可能な瀬戸市の実現に向けては、ごみ処理の持続可能性を追求することが必要で、できる限り「燃やして」「埋める」ということを少なくするとともに、ごみ自体を減らしていくことが重要であるといえます。瀬戸ロータリーの皆様とも、このような循環型社会の実現に向けて、一緒にごみ減量などの取組みを進めていければ幸いと考えております。あらためてよろしく願いいたします。ESG投資やSDGs、カーボンニュートラルといった環境配慮を冠した言葉が多く新聞にも並ぶ現代社会において、瀬戸が一体となって取組みを進めることで、より持続可能なまちを実現できるものと考えております。

以上、拙い説明ではございましたがご清聴ありがとうございました。